

「腎腫瘍の新たな画像診断の確立」

に対するご協力をお願い

研究責任者 陣崎 雅弘

研究機関名 慶應義塾大学医学部

(所属) 放射線科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

1995年4月1日から2030年3月31日までの間に慶應義塾大学病院で手術が施行され、病理組織学的に腎腫瘍の確定診断を受けた患者さんの中で、画像がデータとして残っている方が対象となります。

2 研究課題名

承認番号 20241011

研究課題名 腎腫瘍の新たな画像診断の確立

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院放射線診断科

研究責任者

教授 陣崎雅弘

共同研究機関

なし

研究責任者

研究協力機関

なし

機関の長

既存試料・情報の提供機関

機関の長

なし

4 本研究の目的、方法

腎腫瘍の組織診断や病期診断の推定には画像診断が最も有用で、日常診療の中では欠かせない存在となっています。腎腫瘍は病理組織学的に複数の分類や亜型が存在することで知られ、画像診断はその病理組織を詳細に対比させることで発展をしてきました。それと同時に近年はWHO2022年の改訂にもあるように病理組織診断の発展も目覚ましいです。特に遺伝子や分子病理学的な背景が徐々に明らかになりつつあることから、それに合わせて診断名や疾患分類が変わってきています。むしろ、組織学的な分類や評価法が変われば、我々が行っている画像診断というのもそれに準拠した新たな画像診断の評価法が必要となってきます。現在、こうした病理組織学的な分類や評価に対して新たな画像診断が未だ確立されていない、もしくは研究段階の領域が存在します。そこで、我々は既存の画像データを病理所見と対比し、詳細に評価することで、新たな画像診断や評価法の確立を目指したいと考えています。

5 協力をお願いする内容

臨床上の必要に基づいて取得された画像データ（CT、MRI、超音波、核医学画像）、病理組織所見、年齢、性別、身長、体重を別研究で使用し、二次解析を行わせていただくことにご協力をお願いいたします。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2030年3月31日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学医学部 放射線診断科学教室 池田 織人

連絡先電話番号 03-5363-3837

